

精神医学講座

教授：中山 和彦	精神薬理学, てんかん学
教授：伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教授：中村 敬	精神病理学, 森田療法
教授：宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
准教授：須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学, てんかん学
准教授：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
講師：山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
講師：小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
講師：小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
講師：大淵 敬太	精神生理学, 睡眠学
講師：塩路理恵子	森田療法, 精神病理学
講師：館野 歩	森田療法, 比較精神療法
講師：伊藤 達彦	総合病院精神医学, 精神腫瘍学
講師：中村 晃士	精神分析的精神医学, 児童思春期精神医学
講師：角 徳文	老年精神医学

教育・研究概要

I. 精神病理・精神療法研究会および児童精神医学研究会

我々は、精神療法と精神病理学的研究、および児童精神医学分野の研究を施行している。我々は精神科外来における発達障害の治療システムの研究をしている。また、発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に関してその相違の研究を開始した。この結果、自閉症スペクトラムでは一つのことに集中を維持する機能は保たれるものの、いくつかのタスクが加わると、注意・集中の維持が困難になる傾向があることが明らかになってきた。精神療法では、従来より研究してきたDBT（弁証法的行動療法）の日本での汎用化のための技法の開発とその実践、また発達障害に関する構造化治療法である日記療法、および自己肯定感を高めるためのPsychotherapeutic Approach (SPPA)を開発中である。我々の社会精神医学的研究チームはホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因について研究を施行している。この研究では、男性は、職場での過剰適応傾向がその完全主義的性格傾向を背景に強く、うつと結びつきやすい事。一方女性では、関係性においてのとらわれが、完全主義的傾向を背景に、職場においても家庭においても展開し、疲弊することによってうつと結びつきやすいことが、明らかになった。

II. 森田療法研究会

日本森田療法学会が策定した「外来森田療法のガイドライン」に基づき、標準的な外来治療パッケージの開発と効果研究に着手した。また今年度もパニック障害と全般性不安障害に関する性格学および共存障害の研究、強迫性障害のサブタイプに関する研究、強迫性障害女性例の生活史に関する質的研究、不安障害・気分障害の経過中に生じる「寝込み反応」についての精神病理学的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究を継続した。また森田療法と、アクセプタンス・コミットメント・セラピーを始めとする“第三世代”の認知行動療法との比較研究も推進している。

III. 薬理生化学研究会

基礎研究では、1) 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法による新規向精神薬の脳内作用機序に関する研究、2) NTT Communication 科学研究所と専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究による、薬物依存の発現機序と依存衝動にかかわる脳内神経回路、および、薬物依存の新規治療薬開発に関する研究を行った。臨床研究では、1) 非定型抗精神病薬の不安、ストレス関連障害への有用性に関する研究、2) 放射線医学総合研究所との共同研究で機能的脳MRIを用いた目的指向性行動における内側前頭前野の役割の研究、3) DNA 研との共同研究で神経変性疾患における神経栄養因子遺伝子多型の研究、4) 修正型電気けいれん療法の奏功機序にかかわる関連遺伝子、5) 月経関連症候群、非定型精神病、急性精神病の病態に関する研究を行った。薬理生化学研究会では、基礎と臨床を統合した研究を目指している。

IV. 精神生理学研究会

1) 睡眠医療および睡眠研究用プラットフォームの構築に関する研究、2) 睡眠障害患者のQOLを改善するための科学的根拠に基づいた診断治療技術の開発、3) 慢性不眠症に対する集団認知行動療法の有効性に関する研究、4) うつ病患者の不眠症状に対する集団認知行動療法の有効性に関する研究、5) 多回睡眠潜時測定 (MSLT) 所見からみた中枢性過眠症に関する臨床的検討などを継続あるいは新規着手した。

V. 老年精神医学研究会

認知症患者にVSRADとvbSEEによる解析を加えた脳画像検査と神経心理検査を行い、認知症の重

症度、疾患分類などと画像検査との関連を検討した結果、反応抑制課題と海馬容積の低下が示された。認知症の長期予後研究では、認知症の原因疾患や介護保険の利用の有無では生命予後への影響はなかったが、介護保険による受給額は、血管性認知症でアルツハイマー型認知症よりも高額であった。また、外科との共同で「癌患者における精神障害」の疫学研究を行い、乳癌患者での精神障害の有無、精神症状の程度、背景因子との関連、身体疾患との関連などを調査した。

VI. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では、認知・行動・感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療（緩和ケア）では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

VII. 臨床脳波学研究会

以前より検討してきた各抗精神病薬におけるヒスタミン H1 受容体への親和性とけいれん閾値との関連の検討から本年度は非定型抗精神病薬の投与中に脳波異常・けいれん発作をみた症例の考察がなされた。それに絡んで、現在行っているてんかんに合併する抑うつ病の再発予防の取り組みについて発表した。近年、第2世代の新規抗てんかん薬が相次いで承認されたが、てんかん治療に携わっている小児科、脳外科、神経内科、精神科の共同で新規薬剤の使用経験について報告をした。さらに、特定の状況で誘発されやすい興味深い発作経過がみられた症例について検討した。

VIII. 臨床心理学研究会

2011年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討を継続して行った。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、災害時のこころの支援などのさらなる学習を行った。心理テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中

心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い（研究会）では、前年、東日本大震災のため、お招きすることができなかった明石加代先生を招聘し、サイコロジカル・リカヴァリー・スキルについてのご講演を賜ることができ、災害時のこころの支援について、より実践的な学習を行った。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2011年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、脳科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり、異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえ、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画するの必要を感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Spates CR, Tateno A, Nakamura K, Seim RW, Sheerin CM. The experiential therapy of Shoma Morita; A comparison to contemporary cognitive behavior therapies. *Annals of Psychotherapy & Integrative Health* 2011; 14(1): 14-25.
- 2) Takano H, Ito H, Takahashi H, Arakawa R, Okumura M, Kodaka F, Otsuka T, Kato M, Suhara T. Serotonergic neurotransmission in the living human brain: a positron emission tomography study using [¹¹C] dasb and [¹¹C] WAY100635 in young healthy men. *Synapse* 2011; 65(7): 624-33.
- 3) Ito H, Kodaka F, Takahashi H, Takano H, Arakawa R, Shimada H, Suhara T. Relation between presynaptic and postsynaptic dopaminergic functions mea-

- sured by positron emission tomography: implication of dopaminergic tone. *J Neurosci* 2011; 31(21): 7886-90.
- 4) Takahashi H, Takano H, Camerer CF, Ideno T, Okubo S, Matsui H, Tamari Y, Takemura K, Arakawa R, Kodaka F, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, Ito H, Suhara T. Honesty mediates the relationship between serotonin and reaction to unfairness. *Proc Natl Acad Sci U S A* 2012; 109(11): 4281-4.
 - 5) Ito T, Shimizu K, Ichida Y, Ishibashi Y, Akizuki N, Ogawa A, Fujimori M, Kaneko N, Ueda I, Nakayama K, Uchitomi Y. Usefulness of pharmacist-assisted screening and psychiatric referral program for outpatients with cancer undergoing chemotherapy. *Psychooncology* 2011; 20(6): 647-54.
 - 6) Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Nakayama R, Nakayama K, Yamada H. Association between nerve growth factor (NGF) gene polymorphism and executive dysfunction in Japanese patients with early-stage Alzheimer disease and amnesic mild cognitive impairment. *Dementia and Geriatric Cognitive Disorders* 2011; 32(6): 379-86.
 - 7) Hosoya T, Matsushima M, Nukariya K, Utsunomiya K. The relationship between depressive symptoms and diabetes-related emotional distress in patients with type 2 diabetes. *Intern Med* 2012; 51(3): 263-9.
 - 8) Yamao A, Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Ochiai Y, Kasahara H, Nakayama K. Differentiation between amnesic-mild cognitive impairment and early-stage Alzheimer's disease using the Frontal Assessment Battery test. *Psychogeriatrics* 2011; 11(4): 235-41.
 - 9) Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M, Shibamoto Y, Agata T, Nakayama K. Long absence from work due to sickness among psychiatric outpatients in Japan, with reference to a recent trend for perfectionism. *Iranian Journal of Public Health* 2012; 41(1): 17-27.
 - 10) Kawamura S, Maesawa C, Nakamura K, Nakayama K, Morita M, Hiruma Y, Yoshida T, Sakai A, Masuda T. Predisposition for borderline personality disorder with comorbid major depression is associated with that for polycystic ovary syndrome in female Japanese population. *Neuropsychiatric Dis Treat* 2011; 7: 655-62.
 - 11) Richards DA, Mullan EG, Ishiyama I, Nakamura K. Developing an outcome framework for measuring the impact of Morita therapy: A report from a consensus development process. *日森田療会誌* 2011; 22(2): 165-73.
 - 12) Spates CR, Pagoto S, Nakamura K. Initial trends in depression scores predict differential treatment outcomes. *日森田療会誌* 2011; 22(1): 151-64.
 - 13) Nagata T, Shinagawa S, Ochiai Y, Aoki R, Kasahara H, Nukariya K, Nakayama K. Association between executive dysfunction and hippocampal volume in Alzheimer's disease. *Int Psychogeriatr* 2011; 23(5): 764-71.
 - 14) Yamao A, Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Ochiai Y, Kasahara H, Nakayama K. Differentiation between amnesic-mild cognitive impairment and early-stage Alzheimer's disease using the Frontal Assessment Battery test. *Psychogeriatrics* 2011; 11(4): 235-41.
 - 15) Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M (TOKYO DOME), Shibamoto Y (Mitsubishi Motors), Agata T, Nakayama K. Psychological stress factors related to depression in white-collar workers: within or outside the workplace? *Int Med J* 2011; 18(2): 89-99.
 - 16) 中村 敬. 【DSM 診断体系の功罪 操作的診断は精神科臨床に何をもたらしたか】森田療法からみた操作的診断の功罪. *精神療法* 2011; 37(5): 584-8.
 - 17) 宮田久嗣. 薬の使い方シリーズ Risperidone 持続性製剤を使いこなす(第9回)初発患者における risperidone 持続性製剤の有用性. *臨精薬理* 2011; 14(5): 947-54.
 - 18) 中山和彦, 小野和哉. 日本で創出された臨床単位時代背景と今日憑依・祈禱性精神症(病)・非定型精神病の系譜 カタトニアの世界へ. *精医史研* 2011; 15(1-2): 49-56.
 - 19) 津村麻紀, 古川はるこ, 森田満子, 真鍋貴子, 伊藤達彦, 忽滑谷和孝. 臨床心理士のコンサルテーション・リエゾン活動に対する医療従事者の意識の質的検討が医療に焦点を当てて. *総病精医* 2011; 23(2): 172-9.
 - 20) 中村晃士, 中山和彦. 現代社会と躁. *最新精神医* 2012; 17(2): 149-56.
 - 21) 小林伸行, 中山和彦, 近藤一博. 精神科領域から見た疼痛 身体表現性障害と慢性疲労症候群. 女性心身医 2012; 16(3): 251-5.
- ## II. 総 説
- 1) 中村 敬, 川上正憲. 【痛みとしびれのサイエンス基礎と臨床】(第3章)痛み, しびれの治療 慢性疼痛の心理療法 森田療法の観点から. *脊椎脊髄ジャーナル* 2011; 24(5): 421-5.

- 2) 宮田久嗣. Part 3 統合失調症治療の薬物療法の実践をみる 1. 非定型抗精神病薬の作用機序—ドパミン受容体遮断作用, セロトニン受容体への作用など—. 石郷岡純 (東京女子医科大学), 岡崎祐士 (東京都立松沢病院), 樋口輝彦 (国立精神・神経医療研究センター) 編. 統合失調症治療の新たなストラテジー: 非定型抗精神病薬によるアプローチ. 東京: 先端医学社, 2011. p.118-25.
- 3) 伊藤達彦. 【外来精神医療と緩和ケア】精神腫瘍学との関連を中心に. 外来精神医療 2011; 11(2): 33-8.
- 4) 中山和彦. 基礎体温 二相性の神秘. 女性心身医 2012; 16(3): 208-16.
- 5) 中山和彦, 小野和哉. 「継往開来」 操作的診断の中で見失われがちな, 大切な疾病概念や症状の再評価シリーズ 祈祷性精神症 (病). 精神医 2011; 53(10): 1023-5.
- 6) 塩路理恵子. 【神経症性障害の治療ガイドライン】(第I章) 疾患別項目 身体表現性障害の森田療法. 精神科治療 2011; 26(増刊): 201-5.
- 7) 宮田久嗣, 須江洋成, 山寺 亘, 中山和彦. 【災害後のこころのケアを考える】福島県における支援活動 (原発事故からの避難者を中心に). 最新精神医 2012; 17(1): 19-25.
- 8) 中山和彦. 最新薬物療法 Escitalopram の基礎薬理を知る. 最新精神医 2012; 17(1): 41-9.
- 9) 山寺 亘, 伊藤 洋. 睡眠薬服用のアドヒアランスを良くする, 患者指導のポイントは? 睡眠医療 2011; 5(2): 194-6.
- 10) 中山和彦. てんかんが語る脳内物語—けいれんする生命. 第107回日本精神神経学会学術総会. 東京, 10月.
- 11) 中山和彦. こころの病とその予防—禪と森田療法に学ぶ. 駒澤大学コミュニティ・ケアセンター10周年記念公開講座. 東京, 6月.
- 12) 川上正憲. Miltazapine の投与が有効であった老年期うつ病の1例. 北多摩うつ病カンファレンス, 調布, 4月.
- 13) 眞鍋貴子, 忽滑谷和孝, 小曾根基裕, 青木公義, 杉田ゆみ子, 伊藤 洋, 中山和彦. うつ病再発予防プログラム参加者に対する不眠のための修正型認知行動療法の併用. 第107回日本精神神経学会学術総会. 東京, 10月.
- 14) Yamadera W. The clinical trial of group cognitive behavioral therapy for primary insomnia in outpatients. Worldsleep 2011. Kyoto, Sept.
- 15) 落合結介, 石井洵平, 岡部 究, 齋藤健一郎, 小堀聡久, 青木 亮, 森田道明, 津村麻紀, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 先行する発熱エピソード後に視神経脊髄炎と診断された1症例. 第17回千葉総合病院精神科研究会. 浦安, 3月.
- 16) Kobayashi N, Shimada K, Shimizu A, Kondo K. Identification of SITH-1 as novel latent protein of Human Herpesvirus 6 (HHV-6) associated with chronic fatigue syndrome (CFS) and mood disorders. 京, 11月. [東京精神神経科診療所協会誌]
- 6) Ito H, Shinoto H, Shimada H, Yanai K, Okamura N, Takano H, Kodaka F, Eguchi Y, Higuchi M, Fukumura T, Suhara T. Amyloid imaging in Alzheimer disease using PET with [F-18] fact: A neuritic plaque imaging? 25th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Brain 2011). Barcelona, May.
- 7) Kodaka F, Ito H, Fujiwara H, Kimura Y, Takano H, Suhara T. Striato-cortical relationship of dopamine D2/3 receptor binding in healthy humans: A positron emission tomography study with [11C] raclopride and [11C] FLB457. 25th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Brain 2011). Barcelona, May.
- 8) 小高文聰, 伊藤 浩, 藤原広臨, 木村泰之, 高野晴成, 島田 齊, 須原哲也. 健康人におけるドパミン D2/3 受容体結合能の脳内局所間での相関について. 第51回日本核医学会学術総会. つくば, 10月.
- 9) 塩路理恵子. (シンポジウム2: 現代的なうつと森田療法) 慢性うつ状態の経過中に見られる「寝込み」と森田療法における治療的な工夫. 第29回日本森田療法学会. 横浜, 10月.

III. 学会発表

- 1) Nakamura K. The theory and practice of Morita therapy. Siriraj Psychiatric Practice 2012: Return to Holistic Approach. Bangkok, Mar.
- 2) 中村 敬. 森田療法と心身医療. 第2回日本皮膚科心身医学会. 東京, 2月.
- 3) 石井洵平, 昼間洋平, 川村 論, 宮田久嗣, 中山和彦. 低用量のオランザピンによるストレス障害への有効性. 第21回日本臨床精神神経薬理学会・第41回日本神経精神薬理学会合同年会. 東京, 10月. [日臨精神薬理学会・日精神薬理学会抄集 2011; 21回・41回: 154]
- 4) 宮田久嗣, 石井洵平, 安部和也¹⁾, 北角和浩, 室田尚哉¹⁾, 中山和彦, 澤 幸祐¹⁾(¹専修大). ドパミンアゴニストによる衝動制御障害の神経学的機序に関する基礎的研究. 第52回日本神経学会学術大会. 名古屋, 5月. [日本神経学会学術大会プログラム・抄録集 2011; 52nd: 472]
- 5) 宮田久嗣. 外来診療におけるパーソナルアゴニストの使い方を学ぶ. 東京精神神経科診療所協会例会. 東

International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, Sapporo, Sept.

- 17) 伊藤達彦, 秋月伸哉, 清水 研, 石橋有希, 真鍋貴子, 津村麻紀, 忽滑谷和孝, 中山和彦, 内富庸介. 外来がん患者に対する適応障害・うつ病スクリーニングの臨床的有用性に関する検討. 第24回日本総合病院精神医学会総会. 福岡, 11月. [総病精医]
- 18) 塚原準二, 昼間洋平, 石井洵平, 岡部 究, 齊藤貴之, 杉原亮太, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 心気症に合併した疼痛性障害に対してm-ECTを施行した一例. 第107回日本精神神経学会学術総会. 東京, 10月. [精神誌 2011; 特別: S-208]
- 19) 忽滑谷和孝. (シンポジウム S5: 総合病院における高齢者医療: 医療連携を考える) 高齢者医療における精神科医の役割と課題. 第24回日本総合病院精神医学会総会. 福岡, 11月. [総病精医]
- 20) 中村晃士, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 加藤英里, 瀬戸光, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. 長期休職をしていた精神科外来患者に関する2年間の追跡研究. 第107回日本精神神経学会学術総会. 東京, 10月.

- 2) 中山和彦. 「生活の質」を高めるために その63: あらためて, てんかん発作を考える. ともしび 2012; 3: 14-6.
- 3) 中山和彦. 「生活の質」を高めるために その60: 新規抗てんかん薬が投げかける課題とは. ともしび 2011; 9: 14-5.
- 4) 中山和彦. 閉経期の女性における抗うつ薬の選択を考える. Reful 2011; 7: 1-4.

IV. 著 書

- 1) 中村 敬. 外来治療における方法・技術-外来森田療法のガイドラインから. 青木薫久(菊池病院)編著. サイコ・クリティーク14: 森田療法のいま: 進化する森田療法の理論と臨床. 東京: 批評社, 2011. p.83-99.
- 2) 中山和彦. 18. 薬物療法総論 抗不安薬. 樋口輝彦¹⁾, 市川宏伸(東京都立小児総合医療センター), 神庭重信(九州大学), 朝田 隆(筑波大学), 中込和幸¹⁾(¹国立精神・神経医療研究センター)編. 今日の精神疾患治療指針. 東京: 医学書院, 2012. p.727-30.
- 3) 山寺 亘, 伊藤 洋. Section 3: 不眠症. 日本睡眠学会認定委員会睡眠障害診療ガイドワーキンググループ監修. 睡眠障害診療ガイド. 東京: 文光堂, 2011. p.22-31.
- 4) 忽滑谷和孝, 森田道明, 笠原洋勇. 5. 高齢者の気分障害 3. 不安・焦燥の強いうつ病. 松下正明¹⁾監修, 栗田主一¹⁾(¹東京都健康長寿医療センター研究所)編著. 日常診療で出会う高齢者精神障害のみかた. 東京: 中外医学社, 2011. p.94-8.
- 5) 品川俊一郎. Topics: レビー小体型認知症における食行動の問題. 池田 学(熊本大学)編. 認知症: 臨床の最前線. 東京: 医歯薬出版, 2012. p.56.

V. その他

- 1) 品川俊一郎, 中山和彦. 前頭側頭型認知症の食行動異常に対し Topiramate が有効であった一例. 精神科治療 2011; 26 (11): 1457-63.